



山田敬信名誉教授

山田敬信名誉教授 年譜・著作目録

〈年 譜〉

学歴

昭和 50 年 3 月 金沢大学法文学部法学科卒業
昭和 51 年 3 月 金沢大学大学院法学研究科修士課程中途退学
昭和 54 年 3 月 名古屋大学大学院法学研究科政治学専攻博士前期課程修了
昭和 60 年 3 月 名古屋大学大学院法学研究科政治学専攻博士後期課程単位取得後退学

職歴

昭和 57 年 4 月 名古屋商科大学兼任講師（世界の政治・政治学）（至る昭和 61 年 3 月）
昭和 60 年 4 月 愛知教育大学教育学部兼任講師（政治と人間）（至る平成元年 3 月）
昭和 60 年 4 月 愛知医科大学医学部兼任講師（政治学）（至る平成元年 3 月）
平成元年 4 月 名古屋外国語大学専任講師（至る平成 4 年 3 月）
平成 2 年 10 月 名城大学非常勤講師（政治学）（至る平成 5 年 9 月）
平成 4 年 4 月 名古屋外国語大学助教授（政治学・国際政治学）
《審査》名古屋外国語大学外国語学部 昭和 62 年 8 月 講師（政治学）
名古屋外国語大学外国語学部 平成 5 年 8 月 助教授（現代の国際政治・アメリカ事情（政治・経済））
平成 19 年 4 月 名古屋外国語大学准教授（政治学・国際関係）
平成 21 年 4 月 名古屋大学教養教育院非常勤講師（国際関係論）（平成 21 年 9 月まで）
平成 28 年 3 月 31 日 名古屋外国語大学定年退職
平成 28 年 4 月 1 日 名古屋外国語大学名誉教授

〈著作目録〉

（著書）

『アメリカ合衆国一戦後の社会・経済・政治・外交』 共著 ミネルヴァ書房 平成元年 5 月
pp.271-280

ジョンソン大統領の「貧困との戦い」研究	单著	一粒社、全部で119頁	平成15年 4月1日
『世紀転換期の国際政治史』	共著	ミネルヴァ書房 pp.125-132	平成15年 5月30日
『英米の政治外交』	共著	国際研究センター地域研究叢書 第3巻 愛知学院大学 国際研究センター pp.143-160	平成17年 4月
『地球時代の南北アメリカと日本』	共編著	ミネルヴァ書房 pp.3-24	平成18年 11月
研究論集第3集—特集『20世紀の戦争・紛争をめぐる国際政治(1)』	共著	河合文化教育研究所 pp.75-80	平成18年 11月
(学術論文)			
「ベトナム戦争とウォルト・W・ロストウの役割」	单著	名古屋大学 修士論文	昭和54年 3月
「ジョンソン大統領の不出馬表明とベトナム戦争政策」	单著	『法政論集』 第102号(名古屋大学) pp.167-215	昭和59年 11月
「ジョンソン大統領の『偉大な社会』計画についての一考察」	单著	『中西学園研究紀要』 特輯第1号 pp.45-58	昭和62年 5月
「ジョンソン大統領の『偉大な社会』計画におけるコミュニティ活動の意味」	单著	『法政論集』 第121号(名古屋大学) pp.112-135	昭和63年 8月
「ジョンソン大統領の『貧困との戦い』におけるレトリックの危機」(1)	单著	『名古屋外国語大学紀要』 第5号(名古屋外国語大学) pp.189-216	平成4年 1月
「ジョンソン大統領の『貧困との戦い』におけるレトリックの危機」(2)	单著	『名古屋外国語大学紀要』 第6号(名古屋外国語大学) pp.329-344	平成4年 7月
「ジョンソン大統領の『貧困との戦い』におけるレトリックの危機」(3)	单著	『名古屋外国語大学紀要』 第10号(名古屋外国語大学) pp.234-252	平成6年 7月

「ジョンソン大統領の『貧困との戦い』におけるレトリックの危機」(4)(完)	単著	『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第16号 (名古屋外国語大学) pp.159-174	平成9年 7月
「ジョンソン大統領の『貧困との戦い』の遺産」	単著	『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第19号 (名古屋外国語大学) pp.207-214	平成11年 2月
「冷戦後第二期のアメリカ外交の論理—ハース『不承不承を装う保安官』によって—」	単著	『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第20号 (名古屋外国語大学) pp.257-272	平成12年 2月
「冷戦後アメリカ外交の目標」	単著	『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第24号 (名古屋外国語大学) pp.205-232	平成14年 7月
「アメリカのイラク戦争—その要因と背景」	単著	日本臨床政治学会編 『ポリテイク』第7号 (つなん出版) pp.1-12	平成16年 5月
「ジョンソン大統領の『偉大な社会』計画とベトナム戦争政策」	単著	日本臨床政治学会編 『ポリテイク』第8号 (つなん出版) pp.17-25	平成17年 5月
「『偉大な社会』とベトナム戦争(1)」	単著	名古屋外国語大学外国語学部 『紀要』第39号 pp.27-52	平成22年 8月
「『偉大な社会』とベトナム戦争(2)」	単著	名古屋外国語大学外国語学部 『紀要』第40号 pp.125-142	平成23年 2月
「『偉大な社会』とベトナム戦争(3)」	単著	名古屋外国語大学外国語学部 『紀要』第41号 pp.89-108	平成23年 8月

(その他：書評論文)

- | | | | |
|---|----|--|--------------|
| Walt W. Rostow, “The Diffusion of Power: An Essay in Recent History”, The Macmillan Company, New York, 1972, 611pp (『パワーの拡散—現代史の一試論』) | 単著 | 日本国際政治学会編
『国際政治』第63号
(有斐閣)
pp.190-193 | 昭和54年
10月 |
| 藤本一美編著『ジョンソン大統領とアメリカ政治』つなん出版 | 単著 | 日本臨床政治学会編
『ポリテイク』
第8号
(つなん出版)
pp.38-49 | 平成17年
5月 |

献 辞

山田敬信先生は名古屋外国語大学創立時の *starting member* の一人で、ご担当科目の「政治学」が2年次開講科目であったため、開学2年目の1989年4月より教壇に立たれ、以来本年3月まで27年間の長きにわたって、主に外国語学部の教養教育にご尽力されて来ました。その間、所属学科の看板が「一般教育等」から「総合教養」へと変わり、あるいは教養科目関連のカリキュラムが何度も改訂され、その都度、科目の名称も変わって行きましたが、山田先生がご担当される講義科目には、毎学期決まってクラス定員を遥かに超える多くの受講希望者が殺到し、コンピューター抽選となるのが常でした。政治学あるいは国際政治学、国際関係論といった領域に学生の関心が集まったという事情もあるでしょうが、それ以上に、先生のお人柄にこそ「人気の秘密」があったように思われます。もちろん、昔風に言えば「俺の山田」ということがあるかも知れませんが、ただ単に成績評価が甘いということではなく、学生一人ひとりに対して優しく誠実に接しておられたという点が、多くの学生から支持されていたのだと思います。今風に言えば「癒し系」でいらっしやっただのではないかと。これは私個人の漠とした印象ではあるのですが、そう思うに十分な2つの事実があります。一つは、山田先生のクラスには、しばしば「コアなファン」が居るといふこと。いつも教室の前の方に座って、熱心にノートを取る数名の女子学生グループが居ます。私は何度かそのような山田ファンの女子学生本人たちから、直接、山田先生の授業について話を聞く機会がありました。別に調査した訳ではありません。何かの話の序でに漏れ聞いたということです。しかし、それは一度や二度ではありませんでした。まったく別の学期に、別の学生たちから、しかし同じような話を…という意味です。もう一つの事実は、山田先生ご自身の口から学生たちの「悪口」を聞いたことがない、ということです。私ども教員は、ついつい学生の悪口を言っ

てしまいがちです。それは確かに、教えることの大変さの裏返しではあるのですが、当の学生が聞いたら…とは考えます。山田先生の温厚で、優しく、誠実で、裏表のないお人柄を、学生たちは正しく見抜いていたのではないのでしょうか。

私が山田先生に初めてお会いしたのは、開学を翌年に控えた1987年の秋に栄のホテルで、授業担当予定教員を集めて開かれた事前打ち合せ会の席だったかと、記憶しています。先生の第一印象は、体躯としては非常に恰幅の良い偉丈夫でありながら、決して武張ったところを感じさせない、とても腰の低い謙虚なお人柄の方だというものでした。確か、緊張気味の私に先生の方から声を掛けて下さったのではなかったかと思います。その一言で、ずっと緊張が解けたのを今でも覚えています。以来、学生時代なら大先輩であるにも拘らず、長幼の序を忘れて、一同僚として親しくお付き合いさせていただいて来ました。私の知る山田先生は、弓道と囲碁を嗜まれ、煙草とお酒（日本酒と焼酎）がお好きな、とても子煩悩な、古き良き時代の日本の「お父さん」です。まったき「日本男子」のイメージなのですが、ひょっとしたら、先生がご専門領域において「ジョンソン政権期のアメリカ政治」を中心的な研究テーマに選ばれたのも、そんな先生ご自身の古き良き時代への志向と、一脈通じるものがあったからなのかも知れません。もちろん、そんなことは門外漢の私が偉そうに言うべきことではありませんが、むしろ私自身の「万一そうであつたら…」という夢想だと、ご理解いただければと思います。

最後に、先生のこれからのご健勝とご活躍を祈念しつつ、はなむけの言葉といたします。煙草とお酒はそこそこに、いつまでもお元気で過ごして下さい。折に触れ、今後とも宜しくご指導、お願いいたします。

2016年4月1日

世界教養学科

真田 郷史